

国立国語研究所 研究発表会「格・情報構造（本土諸方言）」
2020. 6. 14

山梨県奈良田方言の格・情報構造

— 属格ノ・ガの用法を中心に —

小西いずみ（東京大学）

三樹陽介（駒澤大学）

吉田雅子（実践女子大学）

1. 奈良田方言の概要

- 山梨県南巨摩郡早川町の北端の集落「奈良田」で使用されてきた地理的言語変種
- 上げ核が弁別特徴のアクセント（上野1975等）など山梨西部方言とは異なる言語特徴を持つ。
- 集落人口42名、65歳以上16名（2015年国勢調査）
 - 発電所の寮の居住者や山梨県内他地域に別宅がある住民を含む数。常時居住者は半数以下、高齢化率はより高。
 - 1950年代の発電所・ダム建設と道路整備、それに伴う集落の移転以後、外部との接触が密になる。
 - 1998-99年当時、話者は40代以上（小西2001）

- アクセント（上野1975等、小西2001、本プロジェクトでの調査結果（以下同））

- 上げ核を弁別特徴とする。
- 上げ核の位置は、東京方言・山梨西部方言の下げ核の位置にほぼ対応する。

0型 [○]○。 [○]○ガ～。 飴・鼻など、主に1類

1型 ○[○。 ○[○]ガ～。 雨・帯など、主に4・5類

2型 [○]○。 [○]○[ガ～。 花・雪など、主に2・3類

• 音素、音節（清水1957、清水・渡辺1958）

- /u/は円唇性強。/i, u/の無声化が起こりにくい。
- /tu/ [tu ~ t^su ~ t^hu], /du/ [du ~ d^zu ~ d^hu ~ d̥u]
 - [t, d]はそり舌ぎみ
 - /zu/と/du/の区別は歴史的仮名遣いにほぼ対応。
- /s, z/ [θ, ð]（イ段を除く）
- /(C)awa/に対応して /(C)aa/ [(C)a:]
[ka:] 〈川・皮〉、[a:] 〈泡・粟〉
- /(c)ae/に対応して /(C)ee/ [(C)e:]
[ma:] 〈前〉

- **文法（清水1957、清水・渡辺1958、小西2002）**

- コピュラ =da, =doo

- 過去辞 -ta, -too

- サ行動詞イ音便 daita [1], daitoo [1]

※ [数字] でアクセントを示す。

- 否定辞 -N, -noo

- 推量辞 -ra, =dura

2. 格と情報構造についての概観

- 主格 ηa

no : oisi [1](2sg), ondaci [2](2pl) で確認

(1) talo: ηa omot ζa : bukkowaito: ηi

太郎=NOM おもちゃ.ACC こわしたよ。

(2) [ka]beni [to]ke: ηa [ka]katte]: ηi 

壁=DAT 時計=NOM かかっているよ。

(3) ano ka ζo :wa oi ζi no kutto:ka

あの 菓子.ACC=TOP 2sg=NOM 食べた(の)か。

- 対格 ○

名詞末 $i, e > ..Cjoo$; $u, o, a > ..CVV$
 稀に \emptyset

〈移動の経路・起点〉も

(4) ta[lo]:wa ɕa[te]:ni dze[ni]o okutto[:] 


太郎=TOP 弟=DAT 金=ACC 送った。

(5) [θa]kjo: non[de]:lu[jo] 

酒.ACC 飲んでいるよ。

(6) taka[:]ɕino [no]ɸikata: [o]ja[ka]la [o]θa:tto[:]ka 

竹馬=GEN 乗り方.ACC 親=ABL 教わったのか。

- 向格 e 移動の目標・着点
 - sa 移動の目標・着点、△授与者・受益者
名詞句末が長音の場合のみ（小林2004）
- 与格 ni 存在場所、授与者、変化の結果など
i が用いられることがある。調査不十分。
 - (7) [ka:]e / ka:[θa] itto[: 
川=ALL 行った。
 - (4) ta[lo]:wa ɕa[te]:ni dze[ni]o okutto[:
太郎=TOP 弟=DAT 金=ACC 送った。

-
- 属格 no, ŋa (N1が有生物) ⇒後述
 - de 〈動作の場所〉 〈手段〉
 - kara 〈起点〉
 - made 〈限界点〉
 - jori 〈比較基準〉
 - to 〈共同者〉

• 主題、否定の焦点 wa

- 名詞末尾と融合することが多い。
- 対格 o に wa (主題) が付くことがある。
- (ka (不定) が o に後接する。)

(8) [mʲi]ḍa: do[ko]ni a[lu]▷
水.TOP どこ=DAT ある?

(3) ano kaɕo:wa oiɕino kutto:ka
あの 菓子.ACC=TOP 2sg=NOM 食べた(の)か。

(9) ha[na]ka: so]no baŋɟumʲiowa mʲi[no]:ḍura[:▷
花子.TOP その 番組=ACC=TOP 見ないだろう。

(10) [θa]lai nani[o]ka [ka]buθe[lo.
皿=DAT 何=ACC=か 被せろ。

3. 属格ノとガ

- **話者・調査について**

17M : 1917年生まれ・男性（故人）
調査期間は1998～2002年

34M : 1934年生まれ・男性。調査期間は2017年～

38F : 1938年生まれ・女性。調査期間は2017年～

本発表で提示する音声は34M、38Fのもの。

• 1人称代名詞 ore [0] (sg), ura [2] (pl, 包括・除外)

- 修飾名詞 (N1) ・ 被修飾名詞 (N2) の意味関係を問わずガ *ŋa* が普通。ノは許容～不適格。
 - 「私たちの一人」 (佐々木2004「部分格」) は無回答。
ura=*ŋa* nakama=*no* hitori となる。
 - ura は単数で用いられることがある (清水1957、清水・渡辺1958) 。

(11) [o]leŋa te ▷

1sg=GEN 手 〈所有-被所有：分離不可〉

(12) ula[ŋa] te[wa] [jo]ŋolete:[lu]de [i]ɕoŋi [a]la:ða: ▷

1pl=GEN 手=TOP 汚れているから 一緒に 洗おう。 〈同〉

(13) ha[na]koŋa [o]leŋa [ma]no: θulu[jo]

花子=NOM 1sg=GEN まね.ACC するよ。 〈対象-動作〉

-
- **2人称代名詞 ぞんざい ware [1](sg), waira [3](pl)**
 - 意味関係を問わずガが普通。ノは許容～不適格。

(14) wa[le]ŋa ani[:]ka ▶

2sg=GEN 兄か？ 〈親族関係〉

(15) [wa]ila[ŋa me]kata: [do]ŋat[tɕa]: alu[do]: ▶

2pl= GEN 目方.TOP どれだけ あるんだ？ 〈属性〉

(16) [wa]ila[ŋa] [ko]la: [ga]kko:wa do[ko]ni attodula:

2pl= GEN 頃.TOP 学校=TOP どこ=DAT あったか？
〈時間関係〉

• **2人称 丁寧～普通 oisi [1](sg), ondaci [2](pl)**

- 意味関係を問わずノ。ガは不適格～判断にゆれ。

(17) o[i]ɕino ɸu[ku]wa do[ko]de katto[

2sg=GEN 服=TOP どこ=LOC 買った？

〈所有-被所有：分離可〉

(18) o[i]ɕino [ta]nomji

2sg=GEN 頼み 〈動作主-動作〉

(19) on[da]tɕino [me]kata: hakala[θu]ka 

2pl=GEN 目方.ACC はかろうか。 〈属性〉

- **2人称 罵倒 unu [1](sg)**

- 意味関係を問わずガが普通。ノは許容～不適格。
(17Mが主データ。34Mは所有関係のみ)

(20) unu[ŋa] tewa [jo]ŋolete:[lu]do:

2sg=GEN 手=TOP 汚れているよ。

〈所有-被所有：分離不可〉

• **3人称代名詞（指示詞） are [2](sg), aira [3](pl)**

- 意味関係を問わずガが普通。ノは許容～不適格。

(21) [a]le[ŋa] [ɕa]ɕiŋŋa alu[ŋi]

3sg=GEN 写真=NOM あるよ。

(=あいつが写っている写真) 〈材料-製品〉

(22) [a]ila[ŋa] nakakara ɕito]ɸi ha[ŋ]tɕo:ɔ

あいつら=GEN 中=ABL 一人 班長=ACC

ela[ba]de:tɕa:do:[jo] ▶

選ばなくてはだよ。 〈全体-部分〉

• 疑問人称代名詞 dare [1](sg)

- 意味関係を問わずガが普通。所有関係以外でノが自発的に現れることがある。

(23) [ko]ʎa: da[le]ŋa te ▷

これ.TOP 誰=GEN 手? 〈所有：分離不可〉

(24) da[le]no ma[e]: [θu]wale[ba] jo[i] ▷

誰=GEN 前.ALL 座ればいい? 〈場所関係〉

• 疑問人称 拘束形態素 da [1](sg) 属格・主格用法のみ

- 意味関係を問わずガが優勢 (34Mのみ確認)

(25) da[ŋa] ma:θa θewale[ba] jo[i]ʎa ▷

誰=GEN 前=ALL 座れば よいだろう (よいか) ?

• 人固有名詞 hanako [1] など

- 17M ガ優勢・ノ許容。34M 所有関係ガ優勢、他ノ優勢。
38F ノ優勢、ガは許容～不適格。

(26) ha[na]koŋa φu[ku]a: do[ko]de katto[: ▷

花子=GEN 服=TOP どこ=LOC 買った？

〈所有：分離可〉

(27) ta[lo]:ŋa ha[na]kono [ha]naŋo[:] site:[lu]jo ▷

太郎=NOM 花子=GEN 話.ACC しているよ。

〈対象-出来事〉

- 姓 hukasawa 所有関係のみ確認 ガ (17M)
- 屋号 wada ノ。ガ不適格。⇒屋号は人名詞ではない。

- **親族名詞 兄 anii [2], 姉 anee [2]**

- 17M ノ優勢、ガも使用（同格未確認）。
34M, 38F ガ優勢、ノ許容。同格ノ適格、ガ不適格。

(28) ane[:]ŋa te[wa] ika[ina:]

姉=GEN 手=TOP 大きいなあ。〈所有：分離不可〉

(29) [ko]leŋa ane[:]no ha[na]koda[jo]

これ=NOM 姉=GEN 花子だよ。〈同格〉

- **父 otoo [2], 母 okaa [2]**
弟 sjatee[1], otooto [4?], 妹 imooto [4?]

- 意味関係を問わずノ。ガは許容～不適格。

- **祖父母・叔父母・子・孫等** 17M 所有でノ適格・ガ不適格

- **一般名詞 人 tonari=no ko[0+0], sensee [4?] 等**

- 17M ノのみ、ガ不適格。

- 34M 所有ノ・ガ併用、他はノのみ、ガ不適格。

- 38F 所有でノのみ、ガ許容。

(30) [to]nalino ko{no/ŋa} te[mo] [jo]ŋolete:[lu][[jo] ▶

隣=GEN 子=GEN 手も 汚れているよ。

[[音節内上昇

- **一般名詞 動物 馬 uma [0] , 魚 juo [0] など**
 - **植物 葦 josi [1]**
 - 所有、材料-製品でノのみ。38Fはガ許容。
- (31) [u]mano [ɕi]ppo
馬=GEN しっぽ 〈所有：分離不可〉
- (32) {θakana/juo}no kanðu[meo] [a]keto[:]ni
魚=GEN 缶詰=ACC 開けたよ。〈材料-製品〉
 - **一般名詞 無生物 家 jee [0?], ここ koko [0] など**
 - 所有でノのみ。ガは不適格。

(33) [a]no [je:]no ma[do あの 家=GEN 窓

• 複数形 -ŋatoo, -ntoo

- 人名詞にのみ付く。
- 単数ではノが優勢な名詞が、-ŋatoo/ntoo 形でガをとりやすいことがある。

(34) a. ha[na]ko{no/*ŋa} te 花子=GEN 手

b. ha[na]koŋato:ŋa te 花子-pl=GEN 手 ▷
(38F)

- 部分格「~の一人」ではノをとりやすい。ただしこの名詞句構造自体が使いにくいようだ。

(35) ula[ŋa]to:{no/?ŋa} çito[li] (私たちの一人) (34M)

3. 属格ノとガ まとめと考察

- ノ・ガの選択要因：N1の意味特性、N1とN2の意味関係
- N1の意味特性
 - 有生性（Silverstein1976の名詞句階層上の位置）が関与しているが、それだけではない。
 - 名詞句階層から見たガの許容範囲に個人差あり。17M・34Mは人、38Fは有生物まで。代名詞は個人差がない。
 - 同じ階層でもガの適格性が異なる。許容度に若干の個人差があるが、名詞相互の適格性の序列は3人一致。
 - 2人称代名詞：ぞんざい形 ware, waira, unu はガ
丁寧～中立形 oisi, ondaci はノ
 - 親族名詞（同格を除く）：兄 anii, 姉 anee はガが優勢。
父母・弟妹、他の親族名詞はノ。ガは許容されにくい。

-
- 2人称代名詞、親族名詞に共通する要因
 - 敬意
 - 親族名詞で、兄姉はガ優勢、弟妹はノ優勢となる理由は敬意からは説明できない。対称用法の有無が関わるか。
 - 主格のノの分布、親族名詞の体系・用法について要追加調査

茨城県水海道方言（佐々木&カルヤ又1997、佐々木2004）

	人代	親族	人間	動物	小動物	植物	
A	+	+	+	+	+	-	5
B	+	+	+	+	-	-	2
C	+	+	+	-	-	-	12
D	+	+	-	-	-	-	3
E	+	-	-	-	-	-	1
	23	22	19	7	5	0	

奈良田方言

許容（発話得られず）

	人代	親族	人間	動物	植物	無生物
38F	+/-	+/-	#	#	#	-
34M	+/-	+/-	+	-	-	-
17M	+/-	+/-	-	-	-	-

- 水海道・奈良田ともに、N1が名詞句階層上の有生の極に近いほど、ガが使用されやすい。また、使用範囲に個人差がある。
 - 水海道方言では人称代名詞～人間名詞まででガを使用する人がもっとも多い。奈良田も人間名詞の前後で個人差が現れる。
- ⇒N1の有生性という条件は二項的なものではなく連続体として捉えられる（佐々木2004: 31）点で、奈良田も水海道方言と同様。
- 水海道では、人称代名詞や親族名詞どうしでガの選択に差があるという記述はない。
 - 《有生性》 《敬意》の2要因を同一の動機から説明できるか。（話し手にとっての身近さ、など）

- N1とN2の意味関係

- 同格関係（「姉の花子」等）ではノ適格、ガ不適格。
- 部分格（「～の一人」等）は該当句自体をとりにくい
- N1 = 代名詞：非所有関係（「～の頼み」「～の見張り」「～の（が写っている）写真」）で自発的にノが選ばれる傾向があるが、ガも許容される。
- N1 = 固有人名：17Mは意味関係非関与。34MはN1が非所有関係の場合にノが選ばれやすいが、ガの適格性の確認不十分。
- N1 = 姉・兄：17MはN1が所有者、動作・経験主体でガを使用～許容、N1が動作の対象の場合、ガを許容しにくい。34Mは意味関係非関与。

水海道方言（佐々木2004: 33）と奈良田方言

	水	奈
a. 所有－被所有	○	○
b. 属性	○	○
c. 親族関係	○	○
d. 受益者－対象	○	未
e. 対象－出来事	○	○
f. 経験者－経験	○	○
g. 動作主－動作	○	○
h. 時間関係	○	○
i. 場所関係	○	○
j. 材料－製品	×	○
k. 同格	×	×
l. 部分格	×	—

例) 子どもの（～向けの）本

-
- 佐々木 (2004)
 - ガが可能な意味関係は「Nikiforidou (1991) 提唱の所有関係を中心とした認知的ネットワークにおいて、所有関係から直接派生可能な意味関係に対応」。
 - j~l は所有関係から直接派生されず、〈全体－部分〉(whole-part) を介して派生する意味関係とする。
 - Nikiforidou(1991)によると
 - j. 材料-製品 < 出自－派生物 (Origin-Originating Element ; 「コリントスの若者」) < 全体-部分
 - k. 同格 (Property-Holder of an Attribute) < 材料-製品
 - l. 部分格 : 「全体－部分」の抽象的な場合 (Whole(abstract)-parts)

-
- j. 材料－製品：水海道では不可、奈良田では可
 - 佐々木の例はN1が動物の「狐の襟巻」「牛の肉」。
一方、奈良田では「私/誰の写真」をもって可としている。
 - 「牛の肉/乳/皮」等〈所有-被所有〉とも〈材料-製品〉ともとれる名詞句を介し、前者から後者が派生されるのでは？
 - N1が有生物の場合〈材料-製品〉形式は〈所有-被所有〉も表せる。意味関係とは無関係に「有生ガ無生」というコロケーションの頻度も、〈材料-製品〉の使用・許容の動機となりうるのではないか。

- 奈良田方言において、属格ガの適格性、ノとの相対的優劣は、N1の有生性、N1とN2の意味関係の両方において、連続体を成す。

- N1とN2の意味関係のうち同格関係は連続体から切り離されている。

		N1とN2の意味関係（所有-被所有からの派生関係）				
		典型		非典型		
N1の有生性	高	ガ	ガ	ガ	ガ/ノ	ガ/ノ
		ガ	ガ	ガ/ノ	ガ/ノ	ノ
		ガ	ガ/ノ	ガ/ノ	ノ	ノ
		ガ/ノ	ガ/ノ	ノ	ノ	ノ
	低	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ

4. 準体助詞としてのガ

- 「Nガ」「Nノガ」の形で「Nのもの」相当

	N	Nガ	Nノ	Nノガ
人代 1sg	ore	○	?	○
1pl	ura	○	?	?
2sg	ware	○	?	×
	oisi	×	○	○
	unu	○	×	×
2pl	waira	○	?	○
	ondaci	×	○	○
3sg	are	○	×	?
疑問	dare	○	○稀	○
親族	anee (姉)	?	?	○
	anii (兄)	?	?	○
	otoo (父)	×	未	○
	okaa (母)	×	未	○
人名	hanako	○	?	○

- 「Nガ」のNの範囲は、連体修飾におけるN1の範囲に準じる。このガは属格であり、属格が名詞句に準じる統語的資格を持つと解釈できる。
- 「Nノガ」のNの範囲はより広く、oisi、ondaciや父母名詞でも可。このガは形式名詞にあたり、属格とは区別できる。
- 用言にガが後接して名詞節を作ることはない。

(36) mat[to] ika[i]{o/jat^su:/*ŋao} mot[te]ko:

もっと 大きい=NML=ACC 持ってこい。

引用文献

- 上野善道 (1975) 「アクセント素の弁別的特徴」 『言語の科学』 6号
- 上野善道 (1976) 「奈良田アクセント素の所属語彙」 『文経論叢』 11-3 文学篇11号
- 上野善道 (1984) 「新潟県村上方言のアクセント」 『金田一春彦博士古稀記念論文集 第二巻 言語学編』 三省堂
- 小西いずみ (2001) 「奈良田方言アクセントの現在：東京式アクセントの習得・併用と従来アクセントの変化」 『人文学報』 320号
- 小西いずみ (2002) 「サ行動詞イ音便化の例外語について：山梨県奈良田方言の場合」 『山梨ことばの会会報』 12号
- 小林隆 (2004) 『方言学的日本語史の方法』 ひつじ書房
- 佐々木冠&ダニエラ・カルヤヌ (1997) 「水海道方言の連体修飾格」 『言語研究』 111号
- 佐々木冠 (2004) 『水海道方言における格と文法関係』 くろしお出版

- 清水茂夫（1957）「奈良田ことばの語法」稲垣正幸・清水茂夫・深沢正志（編）『奈良田の方言』山梨民俗の会
- 清水茂夫・渡辺宦弘（1958）「西山村方言の語法」西山村総合学術調査団（編）『西山村総合調査報告書』山梨県教育委員会（『西山村誌』に再録）
- Nikiforidou, Kiki (1991) The meanings of genitive: a case study in semantic structure and semantic change. *Cognitive Linguistics*, 2(2).
- Silverstein, Michael (1996) Hierarchy of features and ergativity. In Robert Dixon (ed.) *Grammatical Categories in Australian Languages*. Canberra: Australian Institute of Aboriginal Studies.
- 本研究は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本の危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」、JSPS科研費JP17K02777の研究成果を報告したものである。